

大阪・関西万博 脱炭素ワーキンググループ 第1回資料

脱炭素WGの位置づけ・設置目的・検討議題・
スケジュール確認

2022年7月28日
公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
企画局持続可能性部

脱炭素WGの位置づけ

- 大阪・関西万博は、ISO20121への適合を視野に入れて、イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステム(ESMS: Event Sustainability Management System)の導入を検討。
- 大阪・関西万博の準備、運営を通じて持続可能性の実現に向けた方策を検討するため、2021年12月に持続可能性有識者委員会を設置。
- さらに具体的な議論のため、ワーキンググループ等を設置。現時点では、調達ワーキンググループ、脱炭素ワーキンググループを設置し、それぞれ議論を進めているところ。

持続可能性有識者委員会 ※2021年12月設置
持続可能な万博運営に関して議論を行う

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針(2022/4公表)

調達ワーキンググループ
※2022年3月設置
調達コードの策定・運用に関する検討を行う

持続可能性に配慮した調達コード
(2022/6公表)

脱炭素ワーキンググループ
※2022年7月設置
CNを実現するための電源構成やオフセットの検討を行う

EXPO2025グリーンビジョン
(2022/4公表)

資源循環勉強会
※今後設置予定
ごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロに関する検討を行う

※必要時に応じて別途設定する。また、ワーキンググループ等を設置せずに検討するものもある。

各会議体の構成メンバー(50音順)

■脱炭素ワーキンググループ(敬称略、五十音順)

| | |
|-----------------|---|
| 秋元 圭吾(あきもと けいご) | 公益社団法人地球環境産業技術研究機構(RITE) グループリーダー・主席研究員 |
| 下田 吉之(しもだ よしゆき) | 大阪大学 大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻 |
| 信時 正人(のぶとき まさと) | 神戸大学 産官学連携本部 アドバイザリーフェロー 株式会社エックス都市研究所理事 |
| 吉高 まり(よしたか まり) | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 フェロー プリンシパル・サステナビリティ・ストラテジスト |
| オブザーバー参加 | <ul style="list-style-type: none">・ 内閣官房国際博覧会推進本部事務局・ 経済産業省・ 環境省・ NEDO・ 大阪府・ 大阪市・ 大阪商工会議所 |

(参考)各会議体の構成メンバー(50音順)

■持続可能性有識者委員会

| | |
|----------------------|---|
| 浅利 美鈴(あさり みすず) | 京都大学 大学院 地球環境学堂 |
| 伊藤 元重(いとう もとしげ)【委員長】 | 東京大学 名誉教授、学習院大学 国際社会科学部 教授 |
| 下田 吉之(しもだ よしゆき) | 大阪大学 大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻 |
| 高村 ゆかり(たかむら ゆかり) | 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 |
| 竹内 純子(たけうち すみこ) | U3イノベーションズ合同会社 代表、特定非営利活動法人国際環境経済研究所 理事、東北大学 特任教授 |
| 朝野 和典(ともの かずのり) | 地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所 |
| 松原 稔(まつばら みのる) | りそなアセットマネジメント株式会社 |
| 山田 美和(やまだ みわ) | 日本貿易振興機構アジア経済研究所 |
| 渡邊 綱男(わたなべ つなお) | IUCN(国際自然保護連合)日本委員会 会長 |

■調達ワーキンググループ

| | |
|-----------------------|------------------------------|
| 井尻 雅之(いじり まさゆき) | 日本労働組合総連合会 大阪府連合会(連合大阪) 事務局長 |
| 岡本 圭司(おかもと けいじ) | 大阪市経済戦略局長 |
| 加賀谷 哲之(かがや てつゆき)【委員長】 | 一橋大学大学院経営管理研究科教授 |
| 川端 隆史(かわばた たかし) | 大阪府政策企画部長 |
| 崎田 裕子(さきた ゆうこ) | ジャーナリスト・環境カウンセラー |
| 高橋 大祐(たかはしだいすけ) | 真和総合法律事務所 パートナー弁護士 |
| 富田 秀実(とみた ひでみ) | LRQA サステナビリティ株式会社 代表取締役 |
| 山田 美和(やまだ みわ) | 日本貿易振興機構アジア経済研究所 |

脱炭素ワーキンググループ設置の目的

- EXPO2025グリーンビジョン、目指すべき方向性に掲げた「カーボンニュートラルの実現」等に向けて、CFPの算定、電源構成の検討、グリーンビジョンやアクションプランに記載の技術、オフセットの考え方等について議論する。

本万博における カーボンニュートラルの実現

カーボンフットプリント
(CFP)の考え方検討
(バウンダリ・算定条件等)

カーボンフットプリント
(CFP)の算定

様々な削減対策の検討

会期中の
電気・ガス利用に
ついて

エネルギーマネジ
メント(来場者への
訴求方法含む)

グリーンビジョンや
アクションプランに
記載の技術や仕組み

オフセットの考え方

会場外の個人や地域の
取り組み等現時点でク
レジット化できない削減
量の扱い

脱炭素ワーキンググループスケジュール ※状況を鑑み前後する可能性あり

| | 2022 | | | | | | | | 2023 | | | | |
|-------|------|---|----|----|----|----|----|----|------|---|---|---|---|
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 脱炭素WG | | | 脱1 | 脱2 | 脱3 | 脱4 | | 脱5 | | | | | |

第1回(7月28日)

■議題

- 脱炭素WGの位置づけ・設置目的・スケジュール確認(グリーンビジョンの実現)
- 国の動きの確認(内閣官房アクションプラン)
- 会期中の電気・ガス利用について

第2回(9月6日)

■議題

- エネルギーマネジメント(来場者への脱炭素社会の訴求方法を含む)
- オフセットの考え方(個人の行動変容/地域の脱炭素化との連動)

第3回(9~10月)

■議題

- CFP算定の考え方(バウンダリ・算定条件等)
- 自治体等の脱炭素関連の取組紹介
- 資源循環勉強会での検討内容紹介

第4回(10~11月)

■議題

- アクションプランに記載の事業等の進捗報告
- CFP算定及び対策(核となる対策の候補に記載のもの)による削減量の算定

第5回(12月)

■議題

- 企業パビリオン・テーマ館等の脱炭素関連の取組紹介と連携
- 取りまとめ

全体スケジュール ※状況を鑑み前後する可能性あり

